

▶ 第7章

## インド経済外交の多元方程式

### ——中国、パキスタン、ロシアそしてG20

日本経済研究センター主任研究員 兼日本経済新聞シニアライター

山田 剛

#### 【ポイント】

- ▶ 2020年の両軍衝突で悪化した印中関係にはようやく改善の兆しが見えてきた。部品や素材の国産化を狙って政府が掲げた中国製品ボイコットは失敗したが、産業界に国産化を促した効果は認められる。
- ▶ ウクライナ侵攻で制裁下にあるロシアとの緊密な関係は、欧米諸国からの反発を招き、印米関係にも影響を与えかねない情勢だ。これを踏まえ、インドはロシアに対し、停戦に向けて一歩踏み込んだ姿勢を示し始めた。
- ▶ こうした情勢下、インドはG20議長国に就任。新興国の利益を代表して先進国やロシア、中国といった錚々たる加盟国と渡り合う。米国との協力関係拡大も重要なテーマとなってくる。



注目データ

インドの国別化石燃料輸入額（単位：100万ドル、各年4—10月累計）

国名	2021年	シェア (%)	2022年	シェア (%)
オーストラリア	6,257	5.4	9,985	5.0
インドネシア	3,725	2.8	10,822	5.5
イラク	15,074	14.4	22,948	12.9
クウェート	5,140	4.3	6,659	3.0
ナイジェリア	5,195	4.3	4,668	1.8
オマーン	2,432	1.5	3,556	1.1
カタール	5,256	4.4	8,795	4.3
<b>ロシア</b>	<b>2,544</b>	<b>1.6</b>	<b>21,045</b>	<b>11.7</b>
サウジアラビア	12,199	11.5	21,166	11.8
その他	40,018	39.9	55,904	32.8
輸入合計	97,839	100.0	165,550	100.0

資料：インド商工省